

第2部 1. 報告書の取りまとめにあたって

中心市街地の活性化に資する新たな（仮）市民活動・地域交流拠点の検討にあたっては、その立地場所に求められる規模や性能、またまちづくり全体との親和性や相乗効果に関して相互比較し、それぞれの場所の優位性や妥当性を事前に検証することが必要である。

3つの都市公園および1カ所の公有地を対象に、こうした相互比較を行うため、それぞれの場所の魅力化の考え方やまちなか市民交流の仕組み・プロセスと空間・機能の関係を整理した。さらに、相互比較を行うための指標として、新しい公共施設に期待される「機能・サービス」や、施設の「空間・規模」、また中心市街地での市民活動に際する平常時／非常時の「安全・安心」という3つの指標を設け、これを基に細目の相互比較項目を設定して、「市民活動との連携」、「まちづくり」、「機能・サービス（再掲）」、「コスト」、「敷地（利用可能な）規模」、「減災・防災」の各視点から相互比較を実施した。対象とする3つの都市公園と1カ所の公有地の相互比較の概要については本報告書中に提言として記す。